

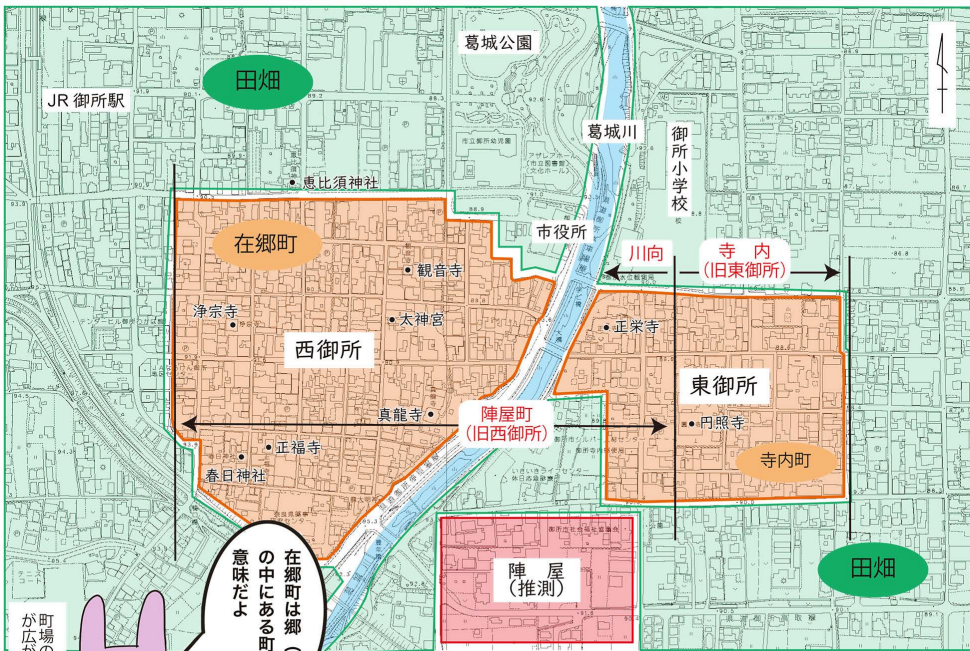
御所まち

伝建通信

文化財課 ☎0745・60・1608

第4回

御所まちの歴史 ② 桑山元晴による整備



在郷町は郷(村)の中にある町って意味だよ

町場の外側は田畑が広がっていたの

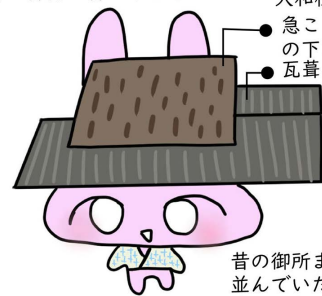
16世紀頃の御所まちは、西御所が御所庄という環濠集落で、東御所が環濠を有した寺内町として、別々に存在していました。この2つの環濠集落を一つの町として整備したのが、初代御所藩主の桑山元晴と言われています。

桑山氏は、鎌倉幕府の有力御家人の結城氏出身とされており、戦国時代には豊臣秀吉の弟の秀長に仕えました。桑山元晴は、慶長元年(1596)に父重晴から御所の所領1万石を分与されます。その後、慶長5年(1600)の関ヶ原の戦では、父と共に徳川側につき、その戦功により2千石を与えられ、戦後は御所藩を設置しました。

前回、戦国時代の御所まちは御所庄と呼ばれ、一向宗の道場があったことをお話ししましたが、その道場は西御所にあつたと考えられています。桑山氏など豊臣系大名は、一向宗の寺院を中心に町場を形成することが常套手段だったようで、豊臣秀吉も石山本願寺の跡地に大坂城を築城し、その寺内町を城下町へと転用しました。元晴もその手法を踏襲し、一向宗の道場が置かれ

ごせまちこ

※文化財課の非公式キャラクター
大和棟の帽子(着脱可能)と大和緋の着物を着たうさぎ



大和棟とは・・・
● 急こう配な茅葺屋根の下に
● 瓦葺の落棟

昔の御所まちは大和棟が並んでいたそうです！今は西御所に2軒残っています

江戸時代の東御所は、大きく寺内町と川向とに分かれていました。寺内町は大和五ヶ所御坊と呼ばれる一向宗の有力寺院である円照寺を中心に形成された地区で、円照寺より以西が川向(現在の代官町と大橋通り一丁目)となります。川向とは、西御所から見て川の向かいにある町のことで、当時は川向の範囲までが西御所でした。

こうして、元晴によって陣屋町と寺内町が整備されましたが、寛永6年(1629)に、元晴の後を継いだ貞晴が死去したことにより、後継者のいない桑山氏は御所藩から去り、廃藩となりました。その際に陣屋も取り壊され田畑となりました。陣屋町としての機能を無くした西御所でしたが、商工業者や農民が集住する在郷町となりました。また、川向のうち現在の大橋通り一丁目は、江戸時代は「新町」と呼称されていたことから廃藩以降に形成されたと考えられます。

ていた西御所を陣屋町としました。陣屋とは、住居兼役所のようなもので、元晴のような3万石以下の小藩の大名は、築城が許されないため陣屋が設けられました。さて、その陣屋がどこにあったのかは定かではありません。明治時代の地籍図を見てみると、東御所の南辺(現在の代官町・柳町付近)に「外堀川」「西外屋敷」「内屋敷」「石垣」など城郭や陣屋に使われる地名があったことがわかります。奈良県遺跡情報地図にも「御所陣屋跡」とされています。発掘調査が行われていないため詳細は不明ですが、おそらくその辺りに陣屋が置かれていたと考えられます。

江戸時代の東御所は、大きく寺内町と川向とに分かれていました。寺内町は大和五ヶ所御坊と呼ばれる一向宗の有力寺院である円照寺を中心に形成された地区で、円照寺より以西が川向(現在の代官町と大橋通り一丁目)となります。川向とは、西御所から見て川の向かいにある町のことで、当時は川向の範囲までが西御所でした。

こうして、元晴によって陣屋町と寺内町が整備されましたが、寛永6年(1629)に、元晴の後を継いだ貞晴が死去したことにより、後継者のいない桑山氏は御所藩から去り、廃藩となりました。その際に陣屋も取り壊され田畑となりました。陣屋町としての機能を無くした西御所でしたが、商工業者や農民が集住する在郷町となりました。また、川向のうち現在の大橋通り一丁目は、江戸時代は「新町」と呼称されていたことから廃藩以降に形成されたと考えられます。